

70 華岡青洲の弟子・小田順亭と帆足萬里の弟子・小田魯庵が 同一人物である証拠の発見

金谷 貢¹⁾, 金谷 桂子²⁾

¹⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 生体組織再生工学分野, ²⁾ 周学館 新潟

【はじめに】華岡青洲の門人である、豊後国日出藩の小田順亭が華岡流麻酔法を用いて行った手術の事例を演者らは発掘した。その一部は前回の学術大会で報告し、本会雑誌に論文としても投稿中である。

この小田順亭は、『帆足萬里全集』上巻収載の「帆足萬里先生小傳」および大分県日出町松屋寺にある彼の墓（魯田先生之墓）の「墓誌銘」によれば、豊後の日出藩において帆足萬里に師事しており、萬里の紹介で青洲に弟子入りするにあたって、萬里から「魯庵」の名を与えられた。したがって、華岡青洲の門人「小田順亭」と帆足萬里の門人「小田魯庵」はこれまで同一人物と見なされてきた。

しかし厳密に言えば、紀伊における青洲の門人としては「順亭」の名のみが知られ、いっぽう、豊後においては、諱の「健」、字の「子順」、号の「魯庵、魯田、通貞」が知られているが、双方で見られる名前がない。また、「墓誌銘」記載の没年を基にした、春林軒入門時の順亭の年齢は25歳となるが、「墓誌銘」の記述「二十三使去從紀伊瘍科華岡氏」からは23歳で青洲に弟子入りしたと解することもでき、年齢が一致しない。このように、両者を同一人物とすることには疑義があり、それを解消することは重要と考えられる。今回、順亭と魯庵が同一人物であることを示す史料を発見したので報告する。

【小田順亭と小田魯庵が同一人物であることを示す証拠】和歌山県紀の川市の青洲の里・フラワーヒルミュージアムの展示品の一つに「奥傳誓約文之事」（以下「誓約文」）がある。本誓約文は、天保5年甲午8月2日付で、華岡青洲・華岡南洋宛に差し出されたもので、門人12名の署名（姓名および号などと思われる別名）、花押および印がある。大きさは縦が31cm、横が132.5cmである。この史料はすでに複数の写真で紹介されているが、それらは署名部分がほとんど割愛されている。そこで、以下に全12名の姓名・別名を活字化して掲げる。活字化に際しては原則として本誓約文の表記によったが、『華岡青洲先生及其外科』（以下、呉氏本）および『華岡流医術の世界』収載の『南遊雜記二』の写真等を一部参考にした。また、各門人の出身地と入門日を『呉氏本』門人録から引用し、本誓約文の上記日付までの在塾日数も示した。「(番号は演者ら), 姓名・別名, 出身地, 入門日(年-月-日), 在塾日数。」の順に示す。

1) 高松涛亭・清發, 土佐 安喜多郡安田浦, 天保5-4-14, 106. 2) 中原久佐・良生, 伊賀 名張本町, 天保5-4-1, 119. 3) 児嶋玄齊・寛, 筑前 太宰府, 天保5-3-23 (4-14^{*1}), 127 (106^{*2}). 4) 早川健造・芳則, 美濃 加茂郡鑄物師屋村, 天保5-2-7, 173. 5) 高野順恭(泰^{*3})・邦公, 越中 富山(松平淡路守家中), 天保4-6-21, 395. 6) 栗崎良叔・良信, 越前 福井家中, 天保4-5-6, 439. 7) 富永斗門・直薫, 伊豫 宇和島, 天保4-5-15, 430. 8) 津田仙山・直良, 筑前 博多津, 天保5-3-23, 127. 9) 朝倉真齋・利一, 常陸 水戸小川, 天保5-3-23, 127. 10) 岸 孝哉・維孝, 周防 岩國, 天保3-5-14, 815. 11) 小田順亭・通貞, 豊後 日出倉成村木下大和守内, 天保4-6-10, 406. 12) 井口寿安・忠良, 越中 富山(松平淡路守家中), 天保4-6-21, 395. (*1:『南遊雜記二』記載の日付, *2:『南遊雜記二』の表記, とともに『華岡流医術の世界』より引用. *3:*1による在塾日数. 門人の所属は、『呉氏本』によれば, 7富永は合水堂, 他は春林軒.)

11番目に「小田順亭」とあり、豊後で知られている「通貞」の署名もある。よって紀伊と豊後の双方で同じ名が発見されたことになる。これは小田順亭と小田魯庵が同一人物であることを示す証拠である。

ここに署名があることは、一定の成業に至ったことを示しており、順亭の外科医としての能力を担保している。また、他の11名も成業に至っているため、今後、彼らを調べれば、「青洲門人による華岡流麻酔法の普及を示す事例」の発掘される確率が、他の無名の弟子を調べるよりも高くなるであろう。